



ホーム

暮らし

観光・レジャー

ビジネス・産業

愛知県政

[ホーム](#) [観光・レジャー](#) [文化芸術の振興](#) [文化財](#) [お知らせ](#)

印刷用ページを開く

平成25年度 発掘調査報告

[2014年3月24日]

平成25年度の発掘調査について

平成25年度に行われている発掘調査について随時報告していきます。

3月24日（月曜日）更新 日面（ひよも）遺跡の調査続報です。

調査研究課の三輪です。

現在日面遺跡はB、C、D区の調査が終了し、E区の発掘調査を行っています。

B区

B区の本調査終了後に、山際にある井戸の補足調査を行いました。井戸を断ち割ったところ、山を削り、しっかりと裏込め（※1）の石を入れて井戸を作っていたことが分かりました。深さは平場側の一番上の石から木組みの底まで1m程度で、このあたりから水が湧きだしています。裏込めからは近世末から近代のものと思われる磁器の破片が出土しており、井戸はこの頃作られたものと考えられます。井戸の底には木組みがあり、この組み方は菅ノ口遺跡のものと大変よく似ていました。

※1 裏込め（うらごめ）：石積み背面に詰め込まれた礫群のこと。



写真1 井戸の断面（左）、木組みの接続部分（右）

C区

調査前のC区は段々状の平場が大小20以上ありました。調査の結果、これらの平場は切り土（地山を削平）、と盛り土（地山を削平した土を利用）でつくられており、平場が崩れないように谷側には石垣を組んでいたことが分かりました。また、石垣を使って道もつくられていました。石垣の間から出土している遺物は新しく、近世末～近代にかけてつくられたものだろうと思われます。



写真2 旧道

D区

調査の結果、D区最下段からは**木枠**や通路に伴う**木製の土留**など木質遺物が検出されました。この辺りからは**近世後期**の**陶磁器**や**漆器**が出土しています。



写真3 木枠

E区調査の終了で**日面遺跡**の発掘調査は全て終了する予定です。E区についてはまた次回報告するのでよろしくお願いたします。

日面遺跡では**近世後期**から**近代**の遺物が多く出土しています。この時期に**日面**に住んでいた人物が分かったため、子孫の方に聞き取り調査をお願いしました（1月30日）。結果、**屋敷**の場所がB区であったことが確定され、その他にも生業など様々なお話を伺うことができました。**聞き取り調査**はこれからも継続していく予定です。何か昔の**下山村**の**景観**や**暮らし**についてご存知の方がおられましたら、**情報**をお待ちしております。

3月24日（月曜日）更新 豊田市下山地区発掘調査について報告会と遺物展示を行いました。

調査研究課の成瀬です。

去る2月22日（土）に**豊田市下山地区発掘調査**の下半期の成果について**報告会**と**遺物展示**を豊田市下山交流館で行いました。

前日の**中日新聞**に紹介記事が掲載されたこともあって、参加者は67名も集まり、盛況の内に開催することができました。当日は急遽会場を、大きな部屋へと変更して頂くなど交流館の方にもお世話になりました。



当センターでは、来年度以降もこうした形で発掘調査の成果を地域の皆様へと還元する活動をしていきたいと考えておりますので、機会がありましたらぜひ脚をお運びいただきたく存じます。

12月19日（木曜日）更新 日面（ひよも）遺跡の調査続報です。

調査研究課の三輪です。

現在**日面遺跡**はB、C（1・2）、D（1・2）区の発掘調査を行っています。今回はB、D1区の経過報告を行いたいと思います。

B区

調査区内の最も大きな平場をより下層まで掘削していくと、**灰釉（かいゆう）陶器**（*1）や**山茶碗**（*2）が出土しました。**灰釉陶器**は**奈良・平安時代頃**、**山茶碗**は**平安末頃から室町時代頃**につくられた陶器です。また、この平場からは100以上の遺構が見つかりました。大小様々で、深さも60cm以上あるものもあります。中からは**山茶碗**の破片が見つかることもありますが、全体的に遺物は少なく、これらの遺構の用途ははっきりしません。

また平場の山側には工具による**掘削痕**が見つかりました。山を切り崩して平場を広げた時期についたものだろうと考えています。この痕跡についての性格や時期について今後さらに検討を進めていこうと思います。



写真1 掘削痕（横方向に見える筋）

D1区

前回報告した溝をより丁寧に調査しました。平場の西から東へ続く溝は巨石に近づくると暗渠（あんきょ）（*3）となり、さらに近くまで来ると方向を南から北へと転換していました（写真2-1、2）。この溝は礎石などの建物跡（江戸時代の終わりから戦前頃?）よりも古い遺構と考えられています。

その後、D区は大きな平場を作る前の段階まで、土を掘り下げました。山茶碗や青磁（*4）の碗が出土しているほか、これらが出土したさらに下の黒色土層からは縄文土器も出土しています。空撮を行った後に、この黒色土層を掘り下げ調査を行っていく予定です。



写真2 暗渠（あんきょ）の調査状況

1. 上の土を除去し、蓋がついた状態の溝を検出途中
2. 溝上の蓋を除去した状態



写真3 青磁（錦蓮弁文）

C1・2区、D2区も調査が行われており、新しい時期の**石垣**の確認を行い、耕作土をはずし、旧地形の確認を行っています。詳細な調査経過はまた後日報告したいと思います。

- *1 **灰釉陶器**（かいゆうとうぎ）：植物の灰などを釉薬としてかけて焼いた陶器。
- *2 **山茶碗**（やまぢゃわん）：中世の無釉の陶器。愛知ではよく出土している。
- *3 **暗渠**（あんきょ）：地中に埋めた水路。
- *4 **青磁**（せいじ）：釉薬中の鉄分が青く発色した焼物。古代から中世にかけて中国から盛んに輸入され、貴重なものとして扱われた。

12月19日（木曜日）更新 菅ノ口遺跡の調査の様子をお知らせします

調査研究課の米満です。

8月30日に今年度分の**菅ノ口遺跡**（すげのくちいせき）の発掘調査が終わりましたので報告します。

今年調査した**菅ノ口遺跡**の調査区は谷を囲む馬蹄（ばてい：馬のひづめ）形をしていて、面積は1300㎡でした（写真1）。遺跡の北東側では石組みの**井戸**を検出しました（写真2）。



左：（写真1）菅ノ口遺跡空撮写真
右：（写真2）石組みの井戸（近世）

最初に近代の**炭焼き窯**の跡を調査しました。下山地区では近年まで炭焼きが盛んに行われ、菅ノ口以外の遺跡でも多くの**炭焼き窯**が確認されています。調査の結果、木炭のかけらや「**ST式特撰製炭用**」とかかれた炭焼き用の温度計が出土しました。この**製炭用温度計**の製造メーカーや「ST」の意味は不明です（写真3・4）。



左：(写真3) 製炭用温度計(近代)
右：(写真4) 「ST式特撰製炭用」の文字

炭焼き窯調査終了後、西側の調査区から調査をしました。戦国時代の羽釜など土師質土器が多数出土しました。そのほかにも深さ2メートルほどの近世以降の素堀りの井戸跡や、近代の土抗から牛の骨も見つかりました(写真5)。



(写真5) 牛の骨(近代)

次に石組み井戸がある東側を調査しました。この井戸を利用した人たちの生活の跡が見つかることを期待して、井戸周辺の表土を調べました。しかし建物の礎石跡などは見つからず、井戸を使用していた人たちの生活の跡は見つかりませんでした。

南東側では江戸時代の陶磁器が多く出土し、北東側では古代の灰釉陶器(かいゆうとうぎ)や土師器など(写真6)が多く出土する溝や土抗が見つかりました。

更に北東側の調査を進めると、古代の遺構の下に条痕文(じょうこんもん)土器など縄文時代の土器が出土しました(写真7)。



左：(写真6) 灰釉陶器など（古代）
右：(写真7) 条痕文土器（縄文時代）

最後に**石組み井戸**を調査しました。井戸の石組みを断ち割って構造を詳しく調べました（写真8）。その結果、石組みの下に、4本の**松の丸太**を井桁状に組んで土台にしていたのが確認できました。この調査で井戸の中から時期を特定できる遺物の発見はありませんでした。



(写真8) 井戸の断ち割り

菅ノ口遺跡の遺物の出土状況は、西側は**中世の遺物**、東側は**縄文・古代の遺物**が出土しました。このようなことから**縄文時代**や**古代・中世**には人々の活動が調査区周辺であったことがうかがわれます。しかし東西での時期差が大きく、何らかの理由があったことが推察されます。調査区北側は谷からの土砂が堆積しているため、この谷が人々の生活に影響を与えたのかもしれない。今後似たような地形の遺跡と比較していきたいと思います。

11月20日（水曜日）更新 柿根田遺跡の調査の様子をお知らせします

調査センターの石井です。

6月から実施している**柿根田遺跡**のA区とB区の調査が終了しましたので報告します。

A・B区は主に斜面地であり、斜面の下にわずかな平地があります。このような場所ですので、人が生活するのに向いていたようにはみえません。なお、事前調査では**落とし穴**がいくつか確認されていました。今回の調査でも、事前調査の結果通り、**落とし穴**を多数検出することができました。これらの**落とし穴**は、斜面で検出した浅い谷の周辺に多く掘られていました。谷に沿って水場へむかう動物を狙ったものかもしれません。穴は、楕円形のものが多く、底に動物の動きを封じるための杭が刺してあった痕跡が残るものもあります。残念ながら、これらの**落とし穴**からは遺物が出土していないので、作られた時期ははっきりとしません。

当地区は、昨年度の調査で古代から中世にかけての堰状（せきじょう）遺構や墨書（ぼくしょ）土器を検出した旧流路の上流（水源）に当たります。今回も関連する遺構や遺物の出土が期待されましたが、結果、直接結びつくものはありませんでした。ただし、水源の谷の周囲で溝を検出していることから、谷でも何かしら人の活動はあったようです。全体的に出土遺物が少ないことや近世以降には炭焼き窯が構築されていることなどから、A・B区は生活というより生業の場所としての長くその役割を担ってきたことが考えられます。

現在、柿根田の谷の最奥部にあるC区を調査しています。ここはA・B区とまた異なった様相を見せていますので、今後また調査報告をしたいと思えます。



柿根田遺跡全景



落とし穴

10月28日（月曜日）更新 日面（ひよも）遺跡の調査続報です。

調査研究課の三輪です。

日面遺跡のA、B、D区の調査経過を報告します。

A区 9月中頃に調査を終了しました。

前回の更新で紹介した黒い色の土からは縄文土器のかけらや 矢じりなどの 石器が出土しました。写真の縄文土器は押し型土器と呼ばれ、約1万2000年～7000年ほど前（縄文時代早期）に使われていた器の破片です。

このような縄文時代の遺物を含む黒色の土を取り除くと、オレンジ色をした地山に到達します。この地山からはいくつかの遺構（*1）が発見されました。その中でも、特徴的なのが「落とし穴」です。シカやイノシシなどを捕えるために地

面に穴を掘り、穴の底に杭を立てていたと考えています。

B区 江戸時代の終わりから戦前頃までの調査を終了しました。

この時期に山をけずり、土を谷側に押し出すことで大きな平らな面を作り、くずれそうな所には**石垣**を築いていたことが分かりました。この平らな面に**屋敷**を建てていたのではないかと考えていますが、**礎石**（*2）など直接屋敷の存在を指し示すものは見つかりませんでした。ただし**近世の瓦** [1] や**銅銭**、**陶磁器**、新しいものでは**明治**から**昭和初期頃**の**ガラスびん**等、人々の生活を連想させる**遺物**（*3）が数多く出土しています。特にの**薬びん**は、現在の下山中学校の近くにあった病院のものであったことが地元の方の話から分かりました。現在はさらに古い地層を目指して発掘を行っています。

D区 D区の調査を開始しました。江戸時代の終わりから戦前頃までの調査を行っています。

最も大きな平場の西側からはおおよそ建物1軒分の**礎石**がでてきました。東側からも**井戸**や**溝**、**石組**などの昔の人々の生活の跡が見つかっています。**遺物**は**銅銭** [写真4-2、3] や**硯**（すずり）、**スレート**（*4）、**陶磁器**、**ガラスびん**等です。特に写真の手前に見える巨石の前から多くの**遺物**が出土しており、**スレート**の1つには文字が刻まれていました。出土遺物や遺構等から推測すると、何らかの宗教施設が建っていた可能性も考えられます。

- *1 **遺構**（いこう） 昔の人が残した動かすことのできない生活の跡。（井戸など）
- *2 **礎石**（そせき） 建造物の土台として柱を支える石のこと。
- *3 **遺物**（いぶつ） 昔の人が残した動かすことのできる生活の跡。（土器や石器など）
- *4 **スレート** 粘板岩などの薄い板状に割れやすい岩石。屋根材としてよく利用される。

8月5日（月曜日）更新 日面（ひよも）遺跡の調査の様子をお知らせします

調査研究課の三輪です。

日面遺跡のA、B区の調査経過を報告します。A、B区は、馬蹄形（ばていけい：馬の蹄（ひづめ）のような形）の遺跡北側に位置します

A区

A区を掘り下げると、黒色土が見つかりました。黒色土は**縄文時代**の人々の痕跡を残している可能性が高いと考えられ、この土の範囲を確認するための調査を行っています。今では調査前とは風景が大きく変わり、多少の段差は見られますが赤っぽい色の地山と黒色土のなだらかな斜面になりました。黒色土より上層からは**近世や中世の陶磁器**（とうじぎ）が出土する一方で、黒色土のすぐ上からは**縄文土器**のかけらや**石器**が出土しています。このことから黒色土からは、今後も**縄文時代の**

遺物が出土するのではないかと予測しています。

B区

現在、上から2段目までの調査を行っています。上に見える石垣は、地山ではなくその上の層にきずかれています。また、石垣の石は昔ながらの手法で割られた痕跡（矢穴・やあな）もありましたが、ドリルを使って割られたものも見られることから、あまり古い時期のものではないと思います。一方で、石垣下の斜面には十数cmから1m近い大きな石が散らばっていることが分かりました。石の一部に平らな面を持つものが多いことから、昔は石垣として組み立てられていたものかもしれません。これらの間からは、**中世の播鉢**（すりばち）や **山茶碗**（やまぢゃわん）、**土師器**（はじき）のかけらなどが出土しています。斜面下の平らなところは、**近世の遺物**を多く含む傾向がありますが、これからもっと掘り下げると斜面と同じ時期の遺構・遺物を発見することができるかもしれません。

5月24日（金曜日）更新 日面（ひよも）遺跡の調査が始まります。

調査研究課の小舟です。

日面遺跡は愛知県豊田市下山代町内に位置し、昨年度は**神デン・日面遺跡**として**縄文時代～中世**までの遺構・遺物が報告されています。今年度は昨年より山側の約9000㎡を調査する予定です。

日面遺跡では**中世の屋敷跡**が見つかる可能性があり、発掘調査での遺構・遺物の発見が期待されます。

私はこれまで、遺跡から出土した**動物の骨**を元に昔の人々の生活を研究してきました。**日面遺跡**の調査を通して、動物や色々な生活の痕跡を見つけることができればと思っています。

日面遺跡

5月24日（金曜日）更新 豊田・岡崎地区研究開発施設用地内遺跡の調査について

調査研究課の伊奈です。

今年度も**豊田・岡崎地区研究開発施設用地内遺跡**の発掘調査が5月半ばから始まりました。**豊田市下山地区**（一部岡崎市額田地区を含む）に展開する複数の遺跡を調査していきますが、今年度は、**日面（ひよも）遺跡**（豊田市下山代町）、**柿根田遺跡**（同町）、**菅ノ口遺跡**（同町）、**丸山A遺跡**（同町）、**神谷上切遺跡**（同町）の調査が行われています。（同時期に（公益財団法人）愛知県教育・スポーツ振興財団**愛知県埋蔵文化財センター**では**孫石遺跡**、**トヨガ下遺跡**、**栗狭間遺跡**を調査します。）

今後、このページを使って、当センターが担当する遺跡の発掘状況を順次紹介していきます。



関連コンテンツ

- ❖ [愛知県埋蔵文化財調査センター](#)
 - ❖ [総務課](#)
 - ❖ [事業の内容](#)
 - ❖ [利用の案内](#)
 - ❖ [アクセスマップ](#)
 - ❖ [アーカイブ](#)
 - ❖ [平成25年度 活動報告](#)
 - ❖ [平成25年度 発掘調査報告](#)
 - ❖ [平成25年度 お知らせ](#)

お問い合わせ

愛知県 埋蔵文化財調査センター

電話: 0567-67-4164

E-mail: maizobunkazai@pref.aichi.lg.jp

[ページの先頭へ戻る](#)

[県機関の連絡先](#)

[個人情報の取扱い](#)

[Webページ作成方針](#)

[リンク方針](#)

[ネットあいちについて](#)

愛知県

Copyright © 2007-2014, Aichi Prefecture. All rights reserved.